

大阪精神保健福祉士協会における スーパービジョンへの取り組み ～スーパービジョンこれから普及プロジェクト第3報～

○西川 孝(サラダ倶楽部)

富澤 宏輔(大阪人間科学大学)

金 文美(桃山学院大学兼任講師)

上田 幸輝(サポートハウスアンダンテ)

辻本 直子(オラシオン)

森 克彦(アンダンテ就労ステーション)

安居 幸栄(ハートランドしぎさん)

長谷高 純一(にじクリニック)

大垣 尚久(丹比荘病院)

当協会としての取り組み(2013年度総会)

(1) SVRの養成

日本精神保健福祉士協会認定SVRや各教育機関等の研究者の協力の下、SVの基礎講座を開催し、SVRを養成する。

(2) SV・ビューローの設置

当協会内にビューローを設置して、契約書式、費用等に関する基本的な仕組みを作る。養成したSVRに登録していただき、SVを希望する会員に対し、情報提供を行って、SVを開始できるよう支援を行う。

これプロの経過(2013～2015年度)

<2013・2014年度>

- ・パイロット事業の実践とモニタリング

<2015年度> ・実行委員会 5回(7月、9月、11月、12月、3月)

- ・2015年11月28日 第1回SVR養成講座

- ・2016年1月～ SVR登録開始
- ・2016年2月～ SVE募集開始

- ・2016年4月 マッチング結果通知

スーパービジョンこれから普及プロジェクト 年間計画

2016年度第5回実行委員会にて作成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
SV実践	E募集		個別SV実施							SVR登録		SVE募集	
フォロワーアップ 養成講座					夏カフェ			養成講座			春カフェ		
実行委員会	第1回 (月末) ・マッチング			第2回 (初旬) ・養成講座企画 ・夏カフェ企画 ・個別SVモニタリング			第3回 ・養成講座企画 ・SVR登録 ・SVE募集			第4回 ・年度まとめ ・年間計画作成 ・春カフェ企画			
ニュース	発行	締切	発行	締切 (講座募集)	発行	締切	発行	締切		発行 締切 (SVE募集)	発行	締切	

SVカフェ

- 他のSVRはどう取り組んでどう感じているのかを聞いたかった、また自分自身も言語化する機会がなかったので参加出来てよかった。
 - 契約書については、期間の記載が分かりづらい。⇒(後日修正済み)
 - SVRとSVEの職場や自宅が離れているとSVの場所設定が大変。
 - マインドマップを用いて「SVの旅をするイメージ」で行っている。
- ※実践での気付き、工夫、困っていること等を出し合う(フォローアップを心がける)。

養成講座

<2016年度> 11月5日(土)

- 実践論(実践報告)を聞くことの重要性を前回で確認し、実施した。
- ビネット(テーマを盛り込んだ架空事例)を用いて、SVの意義について参加者と共有できるように工夫した。

<2017年度> 11月11日(土)(予定)

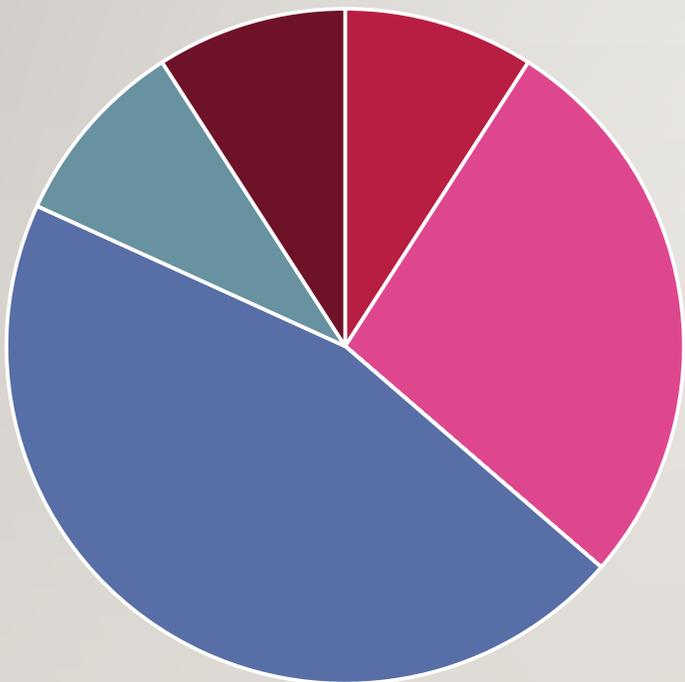
- 受講対象者に5年未満の人も加える(SVEを検討している人:聴講のみ)

SV実践のアンケートから

- 実施:2017年2月
- 対象:個別SV終了後の10組(20人)

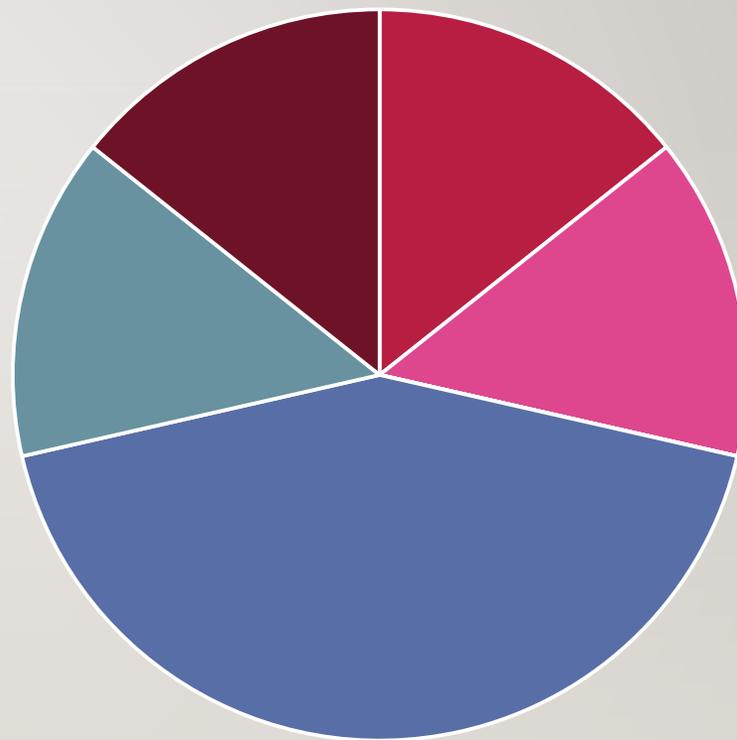
所属機関の内訳

S V E



- 病院
- 診療所
- 保健所
- 他行政
- 福祉事業
- 他福祉
- その他

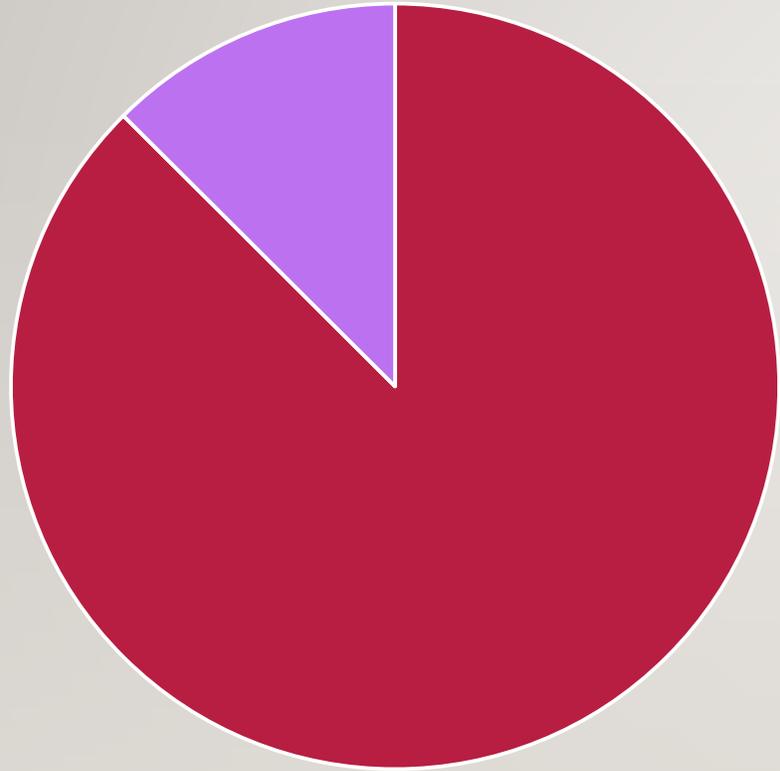
S V R



- 病院
- 診療所
- 保健所
- 他行政
- 福祉事業
- 他福祉
- その他

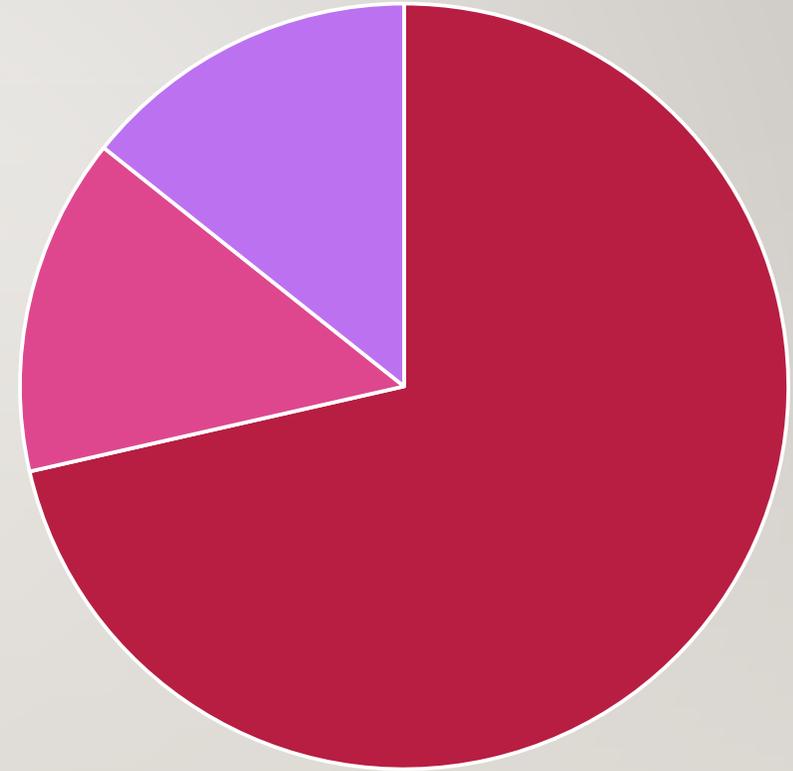
SVの経験

SVE



■ 始めて ■ 定期的 ■ 何度か

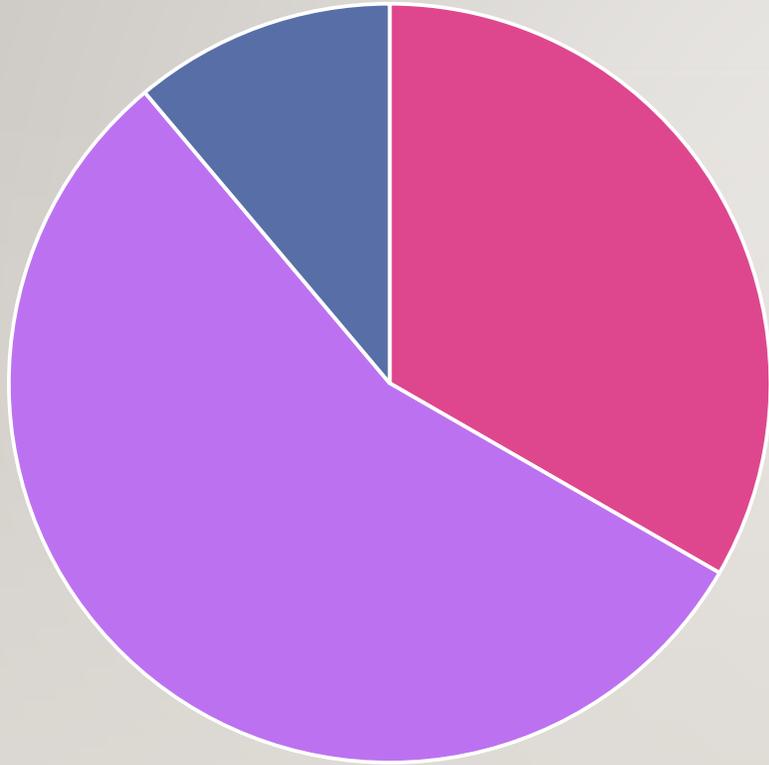
SVR



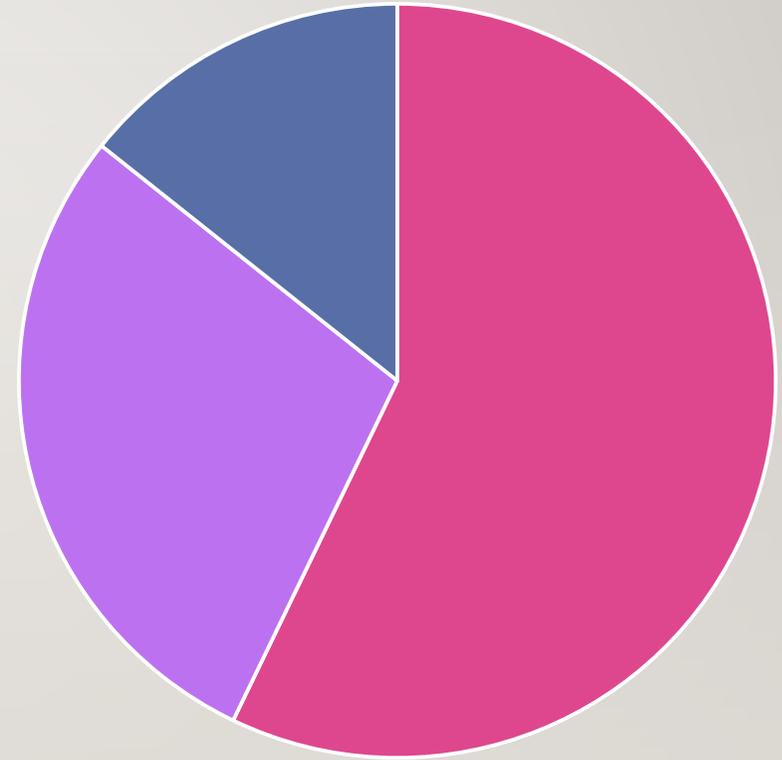
■ 始めて ■ 常時実施 ■ 何度か

6か月の実施期間

S V E



S V R

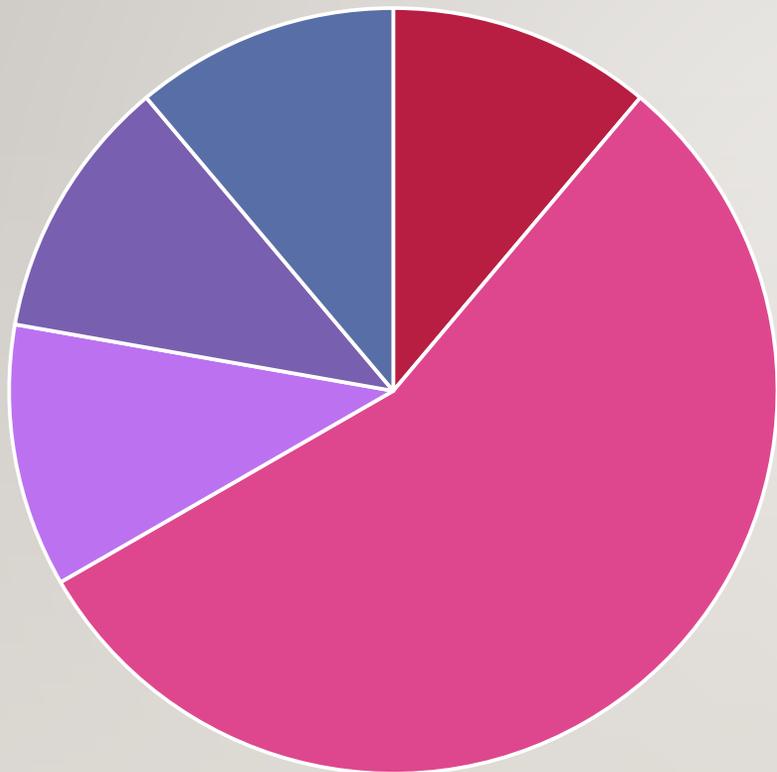


■ 長い ■ よい ■ 短い ■ その他 ■ 無回答

■ 長い ■ よい ■ 短い ■ その他 ■ 無回答

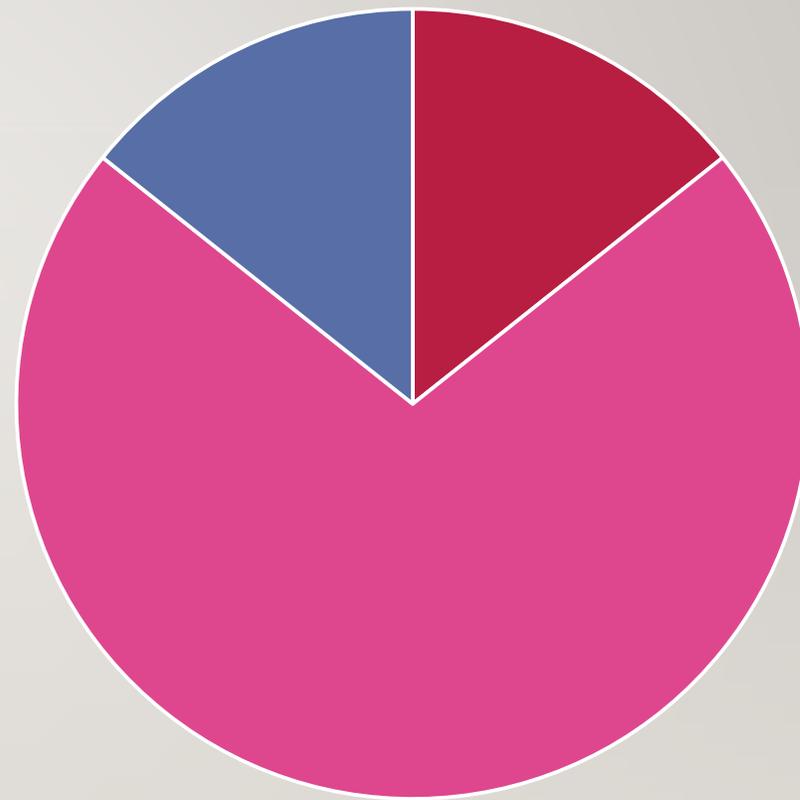
1回あたりの時間(90分~120分)

S V E



■ 長い ■ よい ■ 短い ■ その他 ■ 無回答

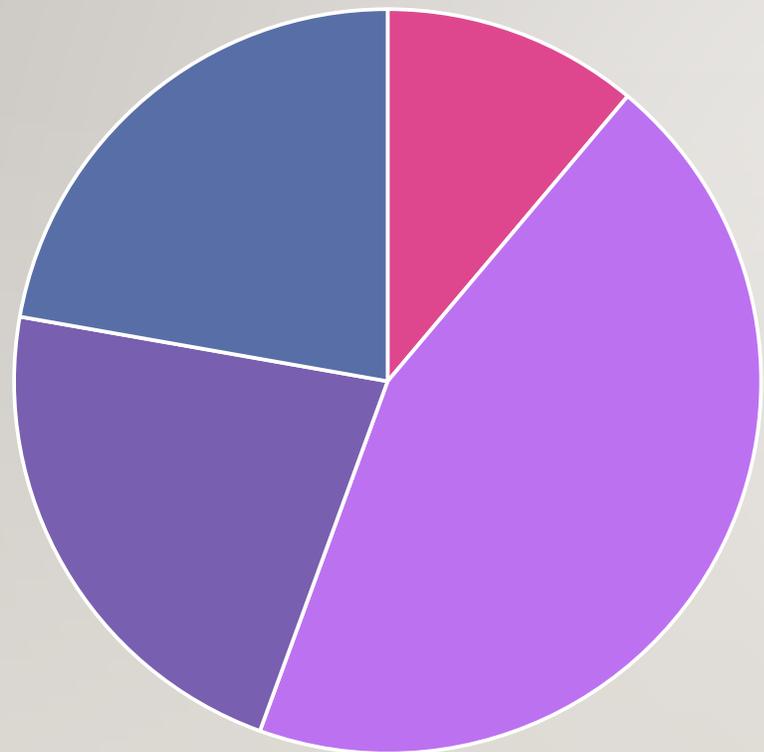
S V R



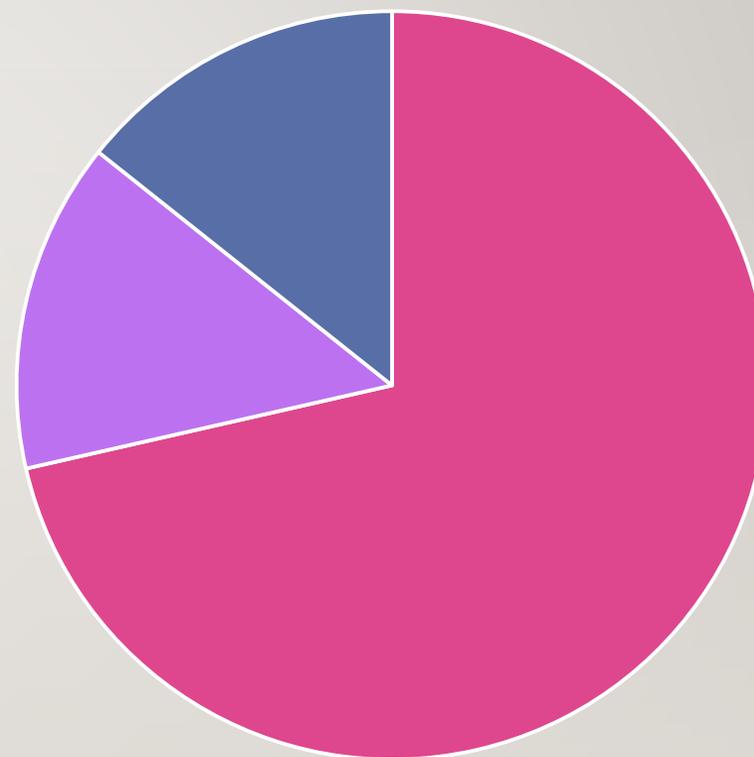
■ 長い ■ よい ■ 短い ■ その他 ■ 無回答

費用はどう感じたか(1回2,000円)

S V E



S V R



■ 高い ■ 適正 ■ 安い ■ その他 ■ 無回答

■ 高い ■ 適正 ■ 安い ■ その他 ■ 無回答

アンケートから(SVE)

- 自宅から近い場所で、普段業務でやりとりする機関でないSVRで安心できた。
- 今後も継続的にSVを受けることができる体制があれば良い
- 低価格、全6回で試せる機会があるのはとてもありがたかった。
- 6回のセッション後、また受けたい。

アンケートから(SVE)

- 日々の業務を通して、今気になっていることや、PSWとしてどんなことを大切にしてきたかということ振り返ることができた。
- PSWとしての自分を振り返る前に、自分自身一個人をよく知ることの大切さを学ぶことができた。
- 自分だけでは考えつかない発想が得られた。

アンケートから (SVE)

- 自分の弱さを素直に認められて、見つめることができた。
- 以前ほど小さな事で動じなくなかった。
- SV前と後で自分の中で明らかかな変化を感じた。
- 支援観が揺れ、確立していなかったが、SVで裏付けができ、ひとつの指針ができた。

アンケートから (SVR)

- 「気づきを促す」と言うことを過度に意識せず、とにかく「関心を持って聞き続ける」ということを意識した。
- 自分自身の器が広げられていくような感覚があった。
- 日頃のソーシャルワーク実践を振り返ることができた。
- より多くの人を手軽に使える仕組みになればと思う。

実行委員会での検討事項

- SVRにはSVEの情報(名前、年齢、自宅と勤務先の最寄り駅、所属機関、連絡先、SV申し込みの動機・理由とSVに期待すること、現在仕事上で困っていること)を郵送する。
- SVEには、SVRについての希望を書く欄を追加し、SVRの情報(名前、年齢、自宅と勤務先の最寄り駅、所属機関、自己紹介とSVEへのメッセージ)を郵送する。
- 各ペアにはフォロー担当者をつける。フォロー担当者からSVRに電話を入れる。その後、書類を郵送する。

実行委員会での検討事項

- 申請と実施のプロセスの検討。
- マッチングは直接実行委員会会議の場で行う。
- 契約の期間を明記する(6ヶ月)。
- 6回終了後については各ペアに任せることとした。
- 継続して実施し、トラブルが起こった場合に、当初マッチングした協会の責任は発生しないのかなど、今後も継続して検討する。
- 協会事務所貸室2016年8月から運用開始。

今後の事業展開について

- パイロット事業という位置づけで、期間(回数)を指定し、実行委員会がマッチングするという形で実施しているが、それが取り組みやすさにつながっているという部分もある。
- SVEの「SVを活用する力」にも大きく支えられている。協会全体で「SVEを育てる」研修などに取り組む必要がある。
- SV実践をしたSVR向けにブラッシュアップ研修を行う。

今後の事業展開について

- SVEが申し込む時の不安を軽減するための工夫(SVRの情報を知りやすく紹介するなど)が必要。
- 2クールを終えて、養成講座も3回目、事業が継続していく中でSVRも少しずつ増えつつあり、協会としての実践の積み重ねもできつつある。